

平成31年度 南九州四県対抗バスケットボール選手権大会参加報告書

高体連 隈元 ゆみこ

大会名：平成31年度第73回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会

派遣期間：平成31年4月26日（金）～4月28日（日）

場所：熊本農業高校体育館

1. 審判会議

1) 開催県審判長挨拶 熊本県岩尾氏

2) 全体会での伝達事項

- ・インテグリティについて
- ・サインは指揮をとる者、タイムアウトの請求ははっきりと出向いて
- ・プレイヤーの協力
- ・コーチの振る舞いについて
- ・初日は2PO、2日目は1・2位パート3PO

3) 諸連絡等

- ・各県若手審判員が多く派遣されてきており、審判技術向上のためにお互い研鑽を
- ・トラブルを未然に防ぐためにPGCなどでしっかり打ち合わせを
- ・ランドリー、更衣室、懇親会について
- ・謝金の取り扱いについて

2. ゲームについて

1) 4月27日（土）

<PGC>

2POのため、TがCの役割を兼ねること、エリア3から始まるドライブプレイに関してLの位置どりの工夫が必要であること、プレイとの距離感やアングルの取り方について。

新ルールへの対応、ベンチへの対応、チームの特徴について。

クロック管理、TOとの協力・コミュニケーションについて。

<担当ゲーム>

① 女子Aパート 中津北 対 小林

CC:隈元 U1:有働（熊本B級）

ゲームの実際

攻防の切り替えの早いゲーム展開であった。ゲーム序盤は中津北のシュートが良く決まり、小林がなかなかリズムがつかめない状況であったが、厳しいDEFから徐々にリズムを取り戻し、最後まで勝敗の分からないゲームであった。最後は、両エースがタフショットをしっかりと決め、残り数秒で攻撃のチャンスをつかんだ中津北が合わせのプレイをしっかりとねじ込み勝利した。

2POということで、一人一人のプライマリが3POより大きくなる分、目の当て方、プレイの捉え方についてT、Lともに工夫が必要であった。2人で協力して、大きなトラブルなくゲームを終えることができた。

ゲーム後 主任 中村光希氏（熊本 B級）

見ていて、どちらに勝敗が転ぶか分からないゲーム展開で最後は両エースがタフショットを決め合う、見ていて面白いゲームであった。そんな中に2人で協力してゲームの邪魔をすることなく進めることができていた。アンスポを考えるシチュエーションで2人が寄って話をしてNFと判定したケース、ショットクロックが誤っていた場面でのTOとの対応など、しっかりコミュニケーションが取れていてよかった。コーチの振る舞いについて、4Q前のインターバル中、コーチが選手へ激しく言葉をかけている点についてどのように考え、対応すればいいのか。

2) 4月28日(日)

<PGC> 3PO

- ・新ルールの確認(特にショットクロック、L2Mタイムアウト明けの対応、振る舞いに対して)
- ・メカニクスについて
ローテーションを積極的に、基本的なことをそれぞれの役割の中で徹底すること
時間の管理について(アシストも含め)
- ・判定について
シンプルに自分のプライマリエリア・アングルの中で判定を積み重ねること
「事実・責任・影響」を確認し、判定につなげること そのためにREF-Dをしっかりと。
シリンドー、リーガルガーディングポジションについて確認
- ・チームの特徴、キーとなるプレイヤーやプレイについて

<担当ゲーム>

① 女子1位パート 大分 対 中津北

CC:隈元 U1:有働(熊本B級) U2:藪崎(熊本B級)

ゲームの実際

序盤は大分のシュートが良く決まり、大分ペースでの試合展開であった。徐々に中津北もディフェンスからリズムをつかみだし、後半中津北がリードし逃げ切るかと思いきや、中津北のキーマンがファウルトラブルにより退場したことで、ゲームは最後までわからない展開となった。最後は、交代で出てきた中津北のエースがバスケットカウントをもらい、勝利した。

3人でしっかりコミュニケーションをとりながら、情報共有し、ゲームを進めていくことができた。ただ、果たして誰が判定すべきであったのか、ローテーションのタイミングについて、CCとしてどうクルーをリードしていくか、どのように伝えるかという点について、今後もっと工夫が必要であると感じた。

ゲーム後 主任 西村かおり氏(熊本A級)

3人でよくコミュニケーションをとってゲームを進めていて、ローテーションに関していくつかタイミングが遅かったり早かったりという場面はあったものの、特にメカに関して違和感はなかった。その中で気になったことは、誰が判定すべきであったかという点について。プライマリエリア、アングルについて、再度確認して欲しい。その中で、シンプルに個々が判定を積み重ねていくことが大切である。また、どうしてもボールウォッチしてしまっているの、チェックイン・チェックアウトをしっかりすること、アングルをとるための工夫をすることが必要である。

② 女子2位パート 小林 対 熊本商業

CC:隈元 U1:谷山(鹿児島B級) U2:中村(熊本B級)

ゲームの実際

両チームともよく練習ゲーム等をするチームということもあり、お互いの手の内を知っていることもあって、点差に関係なく、激しい攻防が最後まで続く内容であった。早い段階でキーとなる熊商の4番が5ファウル退場となってしまった点について、ファウルの捉え方や判定した位置どり、ローテーションについてなど、CCとしてどういった声かけが必要なのかを考えさせられた。コーチの異論表現についてTFを吹かざるを得ない状況であった。

ゲーム後 主任 有働千夏氏（熊本B級）

自分のエリアをこえて無理に判定してしまうことで、苦しくなった場面があったように思う。エリアとアングルについての理解をしっかりとすること、Ref-Dを意識することが大切である。コーチの異論表現に対して、warningにいった場面では、どういった対応が良かったのか。結果CCがTFをコールしなければならなかった。コーチとのコミュニケーションの取り方、対応について考えていく必要がある。

3. まとめ

各県若手が多く派遣されてきており、開催県の熊本にも多くの若手審判員がいて、今後は頼もしいと感じながら、この大会に参加させていただいた。初日は2POということで、1人足りない分をどう2人で補いあっていくか、エリアとアングルの理解はもちろんであるが、Lでの見方やTの位置どりなどもっと工夫が必要であると感じた。3POにおいては、初めてのクルーとどのようなコミュニケーションを図っていくか、CCとしてどのようにリードしていくか、まだまだ力不足、引き出しの少なさを痛感させられたとともに、ゲーム中、考えることが増えることに対して、もっと余裕が持てるような準備が日頃から必要だと感じた。そういった意味では、今回のCCとしての経験は貴重なものとなった。鹿児島から派遣された2人も、IHノミネート最終審査に向け、良い経験を積むことができたようである。このことを県内に還元していけるよう、引き続き研鑽に努めていきます。

今回の派遣にあたりお世話になりました熊本県バスケットボール協会及び審判委員会の皆様、色々ご配慮いただいた原田審判長はじめ鹿児島県審判委員会の皆様に感謝し、報告といたします。ありがとうございました。